

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(20 年 月 日作成)

小委員会名	雨水建築普及小委員会	主 査 名：神谷 博 就任年月：2011年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：大塚雅之
設 置 期 間	2011年4月 ～ 2015年3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨水活用建築ガイドラインの普及</li> <li>・ 雨水建築技術規準の作成</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有(*)	
	主査：神谷 博 (法政大学兼任講師) 幹事：村川三郎 (広島大学名誉教授・特任教授)、屋井裕幸 (雨水貯留浸透技術協会) 委員：小川幸正 (株式会社大林組)、大西和也 (株式会社タハウジングウェア)、佐藤敦子 (a 設計事務所)、笠 真希 (デルフト工科大学)、青木一義 (株式会社西原衛生工業所)、 山田岳之 (糺ノ森環境政策研究所)、村瀬 誠 (東邦大学客員教授)、佐藤 清 (テ クノプラン)、中臣昌広 (文京区文京保健所)、倉 宗司 (小金井市役所)、*早坂 悦子 (東京・洗剤プロジェクト)、*岡田誠之 (東北文化学園大学教授)	
設置 WG (WG名：目的)		
2012 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	12回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	韓国語訳「雨の建築学」「雨の建築術」「雨の建築道」出版
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. セミナー、シンポジウムへの参加 (100%) 2. ガイドラインの普及活動 (80%)：ガイドラインの販売促進が不十分 3. 技術規準作成準備作業 (100%)：次年度から技術規準づくりに入る
委員会活動の問題点 ・課題	1. 海外との連携活動を更に推進すべく若手研究者の参加を促す 2. 技術規準作成に当たっての試験データの蓄積を更に進める。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2012 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

<b>総合評価</b> (4段階評価)	A
<b>総合評価に関する 自由記述欄</b> (理由、特記事項等)	<p>1. セミナー、シンポジウムへの参加（100%）：          予定していたセミナー、シンポジウムにすべて参加できたことに加えて、3月開催予定の慶南水フォーラムへの参加要請を受けてシンポジウムを共催することとなり、国内だけでなく、韓国への普及拡大ができた。</p> <p>2. ガイドラインの普及活動（80%）：          ガイドラインの販売数はまだ不十分だが、「雨の建築学」「雨の建築術」「雨の建築道」の3書は韓国語訳が出版され、普及促進できた。</p> <p>3. 技術規準作成準備作業（100%）：          毎月開催している小委員会において、技術規準の項目に即してテーマを決めて毎回関連する外部講師を呼び、検討を続けてきた。これにより、次年度から始まる技術規準づくりの準備が整った。</p> <p>4. 横浜市学校施設調査は雨水利用施設の放射能汚染の問題である。当初活動予定になかったが、委員の提案により横浜市に問い合わせ、原因究明の援助を行うこととなった。予定外の活動であるが、調査チームを立ち上げて取り組んでおり、調査報告にもとづいて雨水利用施設の再開に繋げることにより、社会的貢献を果たせるよう活動する。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。